

ワクワク 七沢温泉

外山浩太郎

(神奈川県温泉地学研究所)

■ はじめに

神奈川県内には、箱根や湯河原のほかにも多くの温泉場があります。今回は、神奈川県中部（厚木市）に位置している、『七沢温泉』について紹介したいと思います（地図 1）。温泉の特徴として、高いアルカリ性の温泉が多いことが挙げられます。丹沢山地の東麓に位置する七沢温泉は自然豊かで、周辺には多くの魅力的な場所があります。例えば、神奈川県立七沢森林公園は、広さは約 65 ヘクタール（横浜スタジアムの 24 個分）あり、起伏に富んだ地形に雑木林が広がる自然豊かな公園

です（写真 1）。公園内にはバーベキュー場のほか様々な体験教室があります。また、七沢温泉の西側には山岳信仰で有名な大山（標高 1252m）があり、山頂へ向かうハイキングコースが人気となっています（写真 2）。これらの他にも、このエリアには歴史のある寺社をはじめ酒蔵（写真 3）などがあります。

■ 七沢温泉の変遷

七沢温泉の始まりについては諸説ありますが、今から約 200 年前、傷ついた蛇が入浴するのを見て、くすり湯を発見したのが始まりと伝

えられています（大木ほか、1983）。1963（昭和 38）年に神奈川県温泉研究所（現在の神奈川県温泉地学研究所）がこの地域の地下水調査を行いました（大木ほか 1964）。その結果、七沢温泉に湧出する地下水の多くは、県内の他の井戸水と比較してわずかに水温が高く、pH 値が 10 にも達する（高いアルカリ性）特異な性質を有していることがわかりました（平野ほか、1967）。しかし残念なことに、これらの地下水の湧出温度は 25℃未満であり、含まれる溶存成分の濃度も低いために、温泉法（1948（昭和 23）年施行）で定



図 1 神奈川県内における七沢温泉の位置（地図は google map を使用しました）



写真1 神奈川県立七沢森林公園 広大な敷地の公園内にはバーベキュー場やアスレチックのほか体験教室などの施設があります。



写真2 東丹沢七沢温泉郷観光マップ いくつかのハイキングコースがあり、多くの観光スポットがあります。

められた温泉に該当しませんでした。当該地域で最初の登録源泉（温泉台帳番号：厚木第1号）は、1965（昭和40）年に七沢温泉で掘削された深度507mの自噴泉で、当時の神奈川県立七沢リハビリテーション病院で運動機能障害等の治療に利用されました（平野ほか、1967）。掘削当初、この源泉は75 L/minで自噴していましたが、その後自噴量が減

少したため、1971（昭和46）年にポンプ揚湯に切り替えられましたが、1972（昭和47）年の揚湯量は10 L/minでした（荻野ほか、1973）。それ以後、より浅い井戸において温泉が見いだされました（1970（昭和45）年に2源泉、1983（昭和58）年に2源泉）。1996（平成8）年には、この地域で最も深い深度600mの源泉が掘削され、泉質はアルカリ性単純

温泉です。これらの源泉は、温泉旅館などで利用されています（旅館の例：写真4）。

■ 七沢温泉の現状

令和2年時点において、温泉旅館などで利用されている源泉数は4源泉です。これらの源泉の掘削深度は5～600mで、自噴が1源泉、動力揚湯が3源泉です。総揚湯量（自噴を含む）は、約70 L/minです。

■ 温泉の特徴や主な泉質

七沢温泉にある源泉の泉温や化学組成について代表的な3つの例を表1に示します。この地域の温泉の特徴として、pH値が7.5程度のものから10程度までのアルカリ性を示すことが挙げられます。この地域に分布する4源泉中の3源泉では、湧出時の温度が25℃に満たないものの、岩石由来のメタけい酸という成分を温泉の基準値（温泉法で定められている）以上に含んでいることから温泉法の基準をみたす温泉（温泉法の温泉）に該当しています。残りの1源泉は湧出時の温度が25℃を超えており、アルカリ性単純温泉という泉質名がついています。

■ 適応症（効能）と禁忌症

一般に、アルカリ性単純温泉は入浴時の刺激が少ないマイルドな温泉と言われています。入浴した場合の適応症としては、筋肉、関節の慢性的な痛み（関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫など）、冷え性、軽症の高血圧、軽い喘息、痔、睡眠障害、うつ状態、疲労回復、健康増進、自律神経不安定症、不眠症などが挙げられます。一方、病気の活動期（特に熱のある場合）、進行した悪性腫瘍など身体衰弱の著しい場合、重い心臓、肺、

表1 七沢温泉の分析値 過去に温泉地学研究所が発行した温泉分析書の中から例として3源泉を示します

温泉台帳番号	厚木第6号	厚木第11号	厚木第13号
試料採取日	2020年11月13日	2004年7月13日	2017年5月9日
掘削深度 (m)	25	5.44	600
温度 (°C)	20.8	17.4	26.1
揚湯量 (湧出量) (L/min)	5.0	5.0	56
pH	7.6	10.1	9.8
成分総計 (mg/L)	258	241	434
ナトリウムイオン (mg/L)	9.5	61.1	111
マグネシウムイオン (mg/L)	8.7	B.D.	B.D.
カルシウムイオン (mg/L)	24	0.1	0.1
塩化物イオン (mg/L)	6.6	14	30
硫酸イオン (mg/L)	19	36	73
炭酸水素イオン (mg/L)	118	30	83
メタけい酸 (mg/L)	56	67	81
泉質	温泉法の温泉*	温泉法の温泉*	アルカリ性単純温泉

B.D. 検出限界以下

* 温泉法で定められた温泉の基準は満たしますが、療養泉の基準を満たさないことを示しています。泉質は療養泉にのみ付けられます。

腎臓の病気、消化管出血、出血のあるときなどは入浴を控えなければなりません。

■ 温泉の成因

すでに述べた通り、七沢温泉の温泉水の特徴として高いアルカリ性（pH：約10）であることが挙げられます。ちなみに、当該地域以外の神奈川県内のほとんどの地下水のpH値は6から8の範囲です（石坂ほか、1993）。また、この地域の温泉水の水の起源は、この地域周辺に降った雨だと言われています（石坂・栗屋、2001）。

高いアルカリ性を示す温泉水の成因について、大木ほか（1983）は温泉が流れている地層に含まれる



写真3 七沢温泉にある酒蔵



写真4 七沢温泉にある旅館の一例

鉱物と水との化学反応を考えました。つまり、造岩鉱物である地層中の灰長石と水が反応してモンモリロナイトという粘土鉱物に変化する際に、水中の H^+ が消費されて pH が上昇します。この反応によりアルカリ性の温泉が形成されたということです。しかし、このような解釈には疑問点もあります。灰長石自体は、火成岩や変成岩に一般的に含まれていますが、大部分が火成岩で構成されている箱根地域などにおいて、高い pH 値をもつ地下水は報告されていません（板寺、2012）。この地域に分布する高いアルカリ性の温泉の成因解明には、さらなる研究が必要であると考えられます。

■ アクセス

七沢温泉へ車で向かう場合、東名高速道路の「厚木 IC」から 20 分、圏央道を使用した場合は「圏央厚木 IC」から 35 分ほどで到着します。公共交通機関を使用する場合は、小

田急小田原線「本厚木駅」からバスに乗り、最寄りの停留所（「七沢温泉入口」など）で下車してください。例えば、東京の「新宿駅」から出発すると「本厚木駅」までは電車で約 50 分、「本厚木駅」から七沢温泉に最寄りのバス停までは約 30 分で到着します。

■ 参考文献

- 石坂信之・栗屋徹・平野富雄（1993）神奈川県地下水の主要化学成分について，神奈川県温泉地学研究所報告 第 24 巻 第 2 号，27-48.
- 石坂信之・栗屋徹（2001）神奈川県各地の温泉水の水素及び酸素安定同位体比の特徴，神奈川県温泉地学研究所報告 第 32 巻，1-5.
- 板寺一洋（2012）丹沢山地の高アルカリ性地下水，日本水文科学会誌 第 42 号 第 1 号，21-28.

平野富雄・田島綾子・大木靖衛（1967）七沢・鶴巻の温泉・鉱泉，温泉地学研究所報告 第 1 巻 第 5 号，11-22.

大木靖衛・荻野喜作・平野富雄・小鷹滋郎・栗屋徹・杉山茂夫・大山正雄（1983）神奈川温泉誌、温泉地学研究所報告 第 14 巻 第 5 号，99-216.

大木靖衛、田島綾子、平野富雄、荻野喜作、広田茂、高橋惣一、小梶藤幸、守矢正則、杉本光夫（1964）丹沢山地の温泉鉱泉，温泉地学研究所報 第 1 巻 第 2 号，19-37.

環境省自然環境局（2014）鉱泉分析法指針（平成 26 年改訂），1-163.